

商業教員養成所一覽

目次

| 目次 | | 次 | |
|----|------------------|----|----|
| 一 | 一學年曆 | 一 | |
| 一 | 沿革概略 | 一 | |
| 三 | 一實業學校教員養成規程 | 三 | |
| 六 | 一商業教員養成所規程 | 六 | |
| 六 | 總則 | 六 | |
| 七 | 學科課程 | 七 | |
| 一〇 | 學年、學期、休業 | 一〇 | |
| 一一 | 入學、在學、退學 | 一一 | |
| 一五 | 休學 | 一五 | |
| 一六 | 試驗、進級及卒業 | 一六 | |
| 一七 | 一生徒心得 | 一七 | |
| 一九 | 一主事 | 一九 | |
| 一九 | 一生徒 | 一九 | |
| | 一生徒年級表 | | 二一 |
| | 一生徒年齡表 | | 二一 |
| | 一生徒身體檢查統計表 | | 二二 |
| | 一生徒入學前卒業學校別及府縣別表 | | 二三 |
| | 一卒業生及其就職所 | | 二六 |
| | 一卒業生府縣別表 | | 三四 |

商 業 教 員 養 成 所 一 覽

學 年 曆

(本校ニ同シ)

沿 革 概 略

本所ハ明治三十二年^三文部省令第十三號實業學校教員養成規程ニ依リ商業學校及商業補習學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スルノ目的ヲ以テ高等商業學校内ニ設置シ同校長之ヲ管理ス。五月高等商業學校教授水島鏡也主任ヲ囑託セラレ、同月規則ヲ制定ス、其ノ要、生徒ハ師範學校、中學校若ハ甲種以上ノ商業學校卒業生ニシテ地方長官ノ推薦セル者ノ中ヨリ選拔シ若シ定員ニ滿タサルトキハ一般ニ募集シ試験ニ合格セルモノニ就キ之ヲ選拔ス。修業年限ハ二箇年トシ生徒在學中ハ之ニ學資ヲ補給ス。九月授業ヲ開始ス。

明治三十五年一月水島鏡也主任ヲ辭シ高等商業學校教授東夷五郎主任ヲ囑託セラレ、四月東京高等商業學校ニ本所ヲ附設セラレ、同月東京高等商業學校教授東夷

五郎主事ヲ命セラル、同月更ニ實業學校教員養成規程ヲ發布セラル、隨テ本所規程ヲ制定ス、其ノ要、舊規則ニ同シ、十月規程中學資補給ノ章ヲ改正ス
 同三十六年一月主事東京高等商業學校教授東夷五郎、神戸高等商業學校教授ニ任セラレ、二月東京高等商業學校教授佐野善作主事ヲ命セラル
 同四十年二月規程中試験及卒業ノ章ヲ改正ス、十二月規程中ヲ改正ス、是時休學ノ章ヲ設ク

同四十二年五月東京高等商業學校教授佐野善作職ヲ辭シ、東京高等商業學校教授奈佐忠行主事ヲ命セラル

同四十四年三月規程中ヲ改正ス、是時修業年限ヲ四箇年トス

同四十五年三月試験、進級及卒業規程中ヲ改正ス

大正四年六月總則、入學、在學、退學、規程中ヲ改正ス、規程ヲ補給スノ七月本所卒業生ノ本

校專攻部ニ入學シ得ルコトナレリ、九月學科課程ヲ改正ス、十一月學年、學期、休業

規程、試験、進級及卒業規程中ヲ改正ス、學年開始期ス、四月ニ變更ス

同五年一月入學、在學、退學規程中ヲ改正ス

同八年六月總則中ヲ改正ス、再ヒ學資補給規程ヲ設ク

實業學校教員養成規程

文部省令第七號 (大正四年三月三十一日) 大正八年二月十二日 文部省令第三號ヲ以テ改正

第一條 東京帝國大學農學部附屬農業教員養成所、東京高等商業學校附設商業教員養成所及東京高等工業學校附設工業教員養成所ノ生徒ニハ授業料ヲ徵收セ

ス
 前項養成所ノ生徒ニハ一箇月拾五圓以内ノ學資ヲ補給スルコトアルヘシ
 帝國大學及文部省直轄諸學校ノ學生生徒ニシテ卒業ノ後實業學校ノ教職ニ從事セントスル者ニハ授業料ヲ免除スルコトヲ得

第二條 前條養成所ノ生徒及前條第三項ニ依リ授業料ヲ免除セラレタル者ハ卒業ノ日ヨリ左ノ期間文部大臣ノ指定ニ依リ實業學校ノ教職ニ従事スヘキ義務ヲ有ス但シ必要ノ場合ニ於テハ文部大臣ハ他ノ教職ニ従事スルノ義務ヲ負ハシムルコトアルヘシ

一、養成所ノ生徒ハ其ノ在學期間ノ二分ノ一

二、養成所ノ生徒ニシテ學資ノ補給ヲ受ケタル者ハ其ノ補給ヲ受ケタル年限

ニ第一號ノ期間ヲ加ヘタル期間

三、授業料ヲ免除セラレタル者ハ其ノ免除セラレタル期間ノ二分ノ一
 第三條 前條ノ義務期間内ニ於テ學校ニ入學シ若ハ外國ニ留學セントスル者アルトキハ文部大臣ハ時宜ニ因リ之ヲ許可スルコトアルヘシ
 前項ニ依リ許可ヲ受ケタル者ノ當該學校ニ在學中若ハ外國留學中ノ期間ハ前條ノ義務期間ニ算入セス

第四條 第二條ノ義務期間内ニ於テ文部大臣ノ指定ヲ受ケサルカ爲任意就職シタル者ハ其ノ旨直ニ文部大臣ニ届出ツヘシ其ノ就職ヲ罷メ又ハ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

前條ノ許可ヲ受ケタル者學校ヲ卒業又ハ退學シ若ハ歸朝シタルトキハ直ニ文部大臣ニ届出ツヘシ

第五條 第一條養成所ノ生徒及同條第三項ニ依リ授業料ヲ免除セラレタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ授業費、學資又ハ授業料ヲ償還セシム但シ文部大臣ハ事情ヲ酌量シテ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ

一、退學ヲ命セラレ又ハ自己ノ便宜ニ依リ退學シタルトキ

二、實業學校教員タルノ志望ヲ變更シタルトキ

三、第二條ノ義務ヲ盡サス又ハ第三條第一項ノ許可ヲ受ケスシテ入學若ハ留學シタルトキ

前項授業費ノ額ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ各教員養成所ニ於テ之ヲ定ム

第六條 地方長官ニ於テ文部大臣ノ指定ニ依リ教職ニ従事スル者ニ其義務期間内轉任、退職若ハ休職ヲ命セントスルトキハ事由ヲ具シ豫メ文部大臣ノ指揮ヲ受クヘシ但シ陸海軍現役ニ服シ又ハ戰時事變ニ際シ召集セラレタルカ爲當然休職トナリタル者アルトキハ其ノ旨直ニ文部大臣ニ報告スヘシ休職期間滿了ノ爲退職者トナリタル者アルトキ若ハ休職期間中復職ヲ命シタルトキ亦同シ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前各教員養成所ニ入學シタル者若ハ帝國大學及文部省直轄諸學校ノ學生生徒ニシテ學資ノ補給ヲ受ケタル者ニ關シテハ仍從前ノ規程ニ依ル

商業教員養成所規程

第一章 總則

- 第一條 本所ハ實業學校教員養成規程ニ依リ商業學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スルヲ以テ目的トス
- 第二條 本所ノ修業年限ハ四箇年トス
- 第三條 本所ハ授業料ヲ徵收セス
- 第四條 本所ノ生徒ニハ一定ノ數ヲ限リ在學中學資ヲ補給スルコトアルヘシ
- 第五條 本所ノ生徒ニシテ學資ノ補給ヲ受ケタル者ハ其ノ補給ヲ受ケタル年限ニ在學期間ノ二分一ヲ加ヘタル期間其ノ他ノ者ハ在學期間ノ二分一ニ相當スル期間文部大臣ノ指定ニ依リ卒業後直チニ實業學校ノ教職ニ從事スヘキ義務アルモノトス
- 第五條ノ二 本所ノ生徒ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ學資ノ補給ヲ受ケタル者ハ授業費及學資ヲ償還シ其ノ他ノ者ハ授業費ヲ償還スヘキモノトス但シ文部大臣ハ事情ヲ酌量シテ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ

- 一、退學ヲ命セラレ又ハ自己ノ便宜ニ依リ退學シタルトキ
 - 二、實業學校教員タルノ志望ヲ變更シタルトキ
 - 三、前條ノ義務ヲ盡サス又ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケスシテ學校ニ入學シ若ハ外國ニ留學シタルトキ
- 前項授業費ノ額ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ本所ニ於テ之ヲ定ム

第二章 學科課程

第七條 學科課程ハ左表ノ如シ

| 科 目 | 毎 週 時 間 | | | |
|---------------|---------|------|------|------|
| | 第一 年 | 第二 年 | 第三 年 | 第四 年 |
| 一 修 身 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 二 商 業 通 論 | 二 | | | |
| 三 銀 行 及 取 引 所 | | | 三 | |
| 四 交 通 | | 三 | | |
| 五 保 險 | | | 三 | |

| | | | | | |
|------|---------|----|----|----|----|
| 三四 | 教育學、教授法 | | | | |
| 三五 | 體操 | 三 | 二 | 二 | |
| 時間合計 | | 三二 | 三〇 | 三一 | 三二 |

第三及第四學年ニ於テ隨時實地授業又ハ見學ヲ爲サシム

第三章 學年、學期及休業

第八條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第九條 學年中ニ二學期ヲ設ク第一學期ハ四月十一日ヨリ七月二十日ニ至リ第

二學期ハ九月十一日ヨリ翌年三月二十四日ニ至ル

第十條 年中休業左ノ如シ

但休業中ト雖モ教員ノ見込ニ依リ或學科ノ補習又ハ實業ノ調査ヲ命スルコ

トアルヘシ

一 毎日曜日

一 神武天皇祭

一 明治天皇祭

一 天長節

一 秋季皇靈祭

一 神嘗祭

一 天長節祝日

一 新嘗祭

一 紀元節

一 春季皇靈祭

一 春季休業 三月二十五日ヨリ 四月十日ニ至ル

一 夏季休業 七月二十一日ヨリ 九月十日ニ至ル

一 冬季休業 十二月二十五日ヨリ 一月七日ニ至ル

第四章 入學、在學、退學

第十一條 本所ハ學年ノ始ニ於テ入學ヲ許ス

第十二條 本所ニ入學スルコトヲ得ルモノハ年齢滿十七歲以上ノ男子ニシテ身體壯健、品行方正且ツ教員タル志望堅固左ノ各號ノ一ニ該當シ入學試験又ハ第十四條ノ無試験檢定及身體檢査ニ合格シタル者タルヘシ

一、師範學校ヲ卒業シタル者

二、中學校ヲ卒業シタル者

三、甲種商業學校ヲ卒業シタル者

四、専門學校入學者檢定規程ニ依ル試験檢定ニ合格シタル者

五、専門學校入學者檢定規程ニ依リ一般専門學校ノ入學ニ關シ無試験檢定ノ指定ヲ受ケタル者

師範學校、中學校又ハ甲種商業學校ニ在學スル者ニシテ當該學校長ヨリ其ノ年三月ニ卒業スヘシト認メラレタル者ハ同年ニ於ケル本所入學ニ關シ當該學校ノ卒業者ニ準スルコトヲ得但シ豫定期ニ卒業セサリシトキハ其ノ入學ニ關スル手續ハ總テ效力ヲ失フモノトス

第十三條 入學試験ハ修身、國語、漢文、書法、作文、數學、地理、歴史、圖畫、物理、化學、博物、英語ノ各科目ニ就キ中學校卒業ノ程度ニ依リ之ヲ行フ

前項ノ各科目ハ時宜ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ經テ其ノ一科目又ハ數科目ヲ省略スルコトアルヘシ

第十四條 師範學校、中學校又ハ甲種商業學校ヲ卒業シタル入學志願者ニシテ所

定ノ學年間當該學校ニ在學シ各學年首位ヨリ算ヘテ及第者總數ノ十分一以內ノ席次ヲ有シ卒業ノ際第五位以上ノ席次ニ在リタル者ハ若干名ヲ限り試験ヲ用キス入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第十二條 第二項ニ規定セル入學志願者ニシテ在學中既往ノ成績前項ノ規定ニ該當スル者ハ無試験檢定ヲ出願スルコトヲ得但シ卒業期ニ於テ前項規定ノ成績ヲ得サリシトキハ右出願ノ效力ヲ失フモノトス

本條ニ該當スル者ノ身體ハ先ツ身體檢査證ニ依リ檢査シ入學前更ニ本所ニ於テ檢査ヲ行フモノトス

第十五條 削除

第十六條 募集スヘキ生徒ノ員數及期日等ハ其ノ都度公告スヘシ

第十七條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ保證人一名ヲ立テ誓書ヲ認メ其ノ年四月十日迄ニ本校ヘ提出スヘシ

第十八條 保證人ハ丁年以上ノ男子ニシテ東京市内ニ於テ一家ヲ立テ生徒ノ身分ニ關シ一切引受クルニ足ルヘキ關係及相應ノ資産ヲ有スル者ニ限ル

第十九條 保證人死去若ハ前條ノ資格ヲ失ヒタルトキハ速ニ他人ヲ以テ之ニ代

へ更ニ誓書ヲ差出スヘシ

第三十條 削除

第二十一條 生徒若シ學業ヲ怠リ又ハ品行修ラズ若ハ疾病等ノ故ヲ以テ成業ノ見込ナシト認ムルトキハ退學セシムヘシ

印紙

誓書

私儀今般商業教員養成所へ入學御許可相成候ニ付テハ御規則ヲ遵守シ專心勉勵可仕又卒業ノ後ハ御規定ノ義務ニ服シ可申候仍誓書如此候也

本籍族稱職業

(某子弟又ハ被後見人等)

年 月 日

氏 名 印

何年何月何日生

宿所 東京市何區何町何番地

前書ノ趣相違無之ニ付拙者保證人ニ相立チ本人ニ係ル一切ノ事件引受可申仍テ保證如此候也

但貴所御規則ハ總テ承知致シ候也

本籍族稱職業

保證人 氏

名 印

何年何月生

年 月 日

宿所 東京市何區何町何番地

東京高等商業學校長氏名殿

前書保證人某ハ丁年以上ニシテ當區内ニ一家ヲ立ツルモノニ相違無之候也

第五章 休 學

年 月 日

何 區 長 印

第二十二條 生徒疾病又ハ避クヘカラサル事故ニ因リ滿二箇月以上修學シ能ハスト認ムルトキハ保證人連署ヲ以テ校長ニ願出テ其ノ許可ヲ得テ滿壹箇年以内休學スルコトヲ得其ノ疾病ニ罹リタルモノハ醫師ノ診斷書ヲ添フルコトヲ要ス但シ其疾病平癒シ又ハ事故止ミタルトキハ休學期間内ト雖其ノ旨届出テ就學スルコトヲ得

第二十三條 生徒ノ陸海軍ノ現役ニ在ル者及召集中ノ者ハ校長ノ許可ヲ得テ其間休學シ現役又ハ召集終レハ直ニ其ノ原級ニ復スルコトヲ得

第六章 試験進級及卒業

第二十四條 試験ヲ分チテ學年試験及學期試験ノ二種トス

學年試験ハ其ノ學年中ニ履修シタル學科ニ就キ學年末ニ於テ之ヲ執行ス
學期試験ハ第一學期末ニ於テ各科目ニ就キ之ヲ施行ス但シ每週教授時數一時
間ノ學科ニ就キテハ學期試験ヲ省略スルコトアルヘシ

第二十五條 學科目ニ依リ便宜之ヲ數課目ニ分チ其成績ヲ定ムルコトアルヘシ
第二十六條 各學科目學年ノ成績ハ學年試験ノ成績ト學期試験ノ成績トヲ斟酌
シテ之ヲ定ム

第二十七條 成績ハ點數ヲ以テ定メ百點ヲ滿點トス
各科目ノ點數五十點以上平均點數六十點以上ヲ得タル者ヲ及第トス但シ五十
點未滿ノモノ一科目ナル場合ニ限り特ニ及第トスルコトアルヘシ

第二十八條 珠算作文書法商業實踐外國語及體操ハ平常ノ成績ヲ以テ學期試験
及學年試験ノ成績ニ代フルコトアルヘシ

第二十九條 學期試験ニ缺席シタル者ハ特ニ校長ノ許可ヲ經ルニアラサレハ學
年試験ヲ受クルコトヲ得ス

第三十條 學年試験ニ缺席シ追試験ヲ受ケントスル者ハ其ノ試験期日內ニ其旨
ヲ願出ツルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ學期試験ノ成績ト平常ノ勤惰トヲ審査シテ之ヲ許可スル
コトアルヘシ

本條ニ依リ試験ヲ施行スル場合ニハ其ノ科目ニ對スル評點ニ係數奇零九ヲ乘
シテ得點トス

第三十條ノ二 不合格者ニシテ前學年ニ於テ七十點以上ノ點數ヲ得タル科目ニ
就キテハ其ノ試験ヲ省略スルコトアルヘシ

第三十一條 卒業者ニハ卒業證書ヲ授與ス
卒業ノ席次ハ各學年ノ成績ヲ勘合シ其ノ優劣ニ依リ之ヲ定ム

生徒心得

第一條 忠孝ヲ旨トシ本分ヲ重シ義務ヲ守リ人ニ接スルニ溫良謙讓事ヲ執ルニ
誠實果敢以テ真正ノ教育者タルヘキ性格ヲ養成スヘシ平素攝生ニ注意シ身體
ノ強健ヲ圖リ以テ快活ノ精神ト進取ノ氣象トヲ養成スヘシ

第二條 常ニ教室ノ神聖ナルヲ思ヒ秩序ヲ重シ專心以テ學術ヲ習得スルヲ勉ムヘシ

長上ニ對シテ敬禮ヲ行フヘキハ勿論生徒相互ノ間ニ於テモ亦禮讓ヲ重スヘシ
第三條 登校ノ節ハ制服制帽ヲ着用スヘシ

第四條 放課ノ時間ト雖靜肅ヲ旨トシ苟モ喧噪ノ行爲アルヘカラス

第五條 校内ニ在リテハ所定ノ場所以外ニ於テ飲食喫烟スヘカラス

第六條 病氣其他ノ事故ニヨリ缺席セントスルトキハ其理由ヲ記シタル届書ヲ

差出スヘシ其缺席二週日以上ニ及フトキハ保證人ノ連署ヲ要ス但シ病氣ノト

キハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ

第七條 生徒又ハ保證人ニシテ氏名ヲ改メ又ハ轉籍轉居シタルトキハ直ニ其旨

ヲ届出ツヘシ

第八條 校内ニ於テ事ノ何タルヲ問ハス許可ナクシテ漫ニ會合スヘカラス

第九條 凡ソ告示ハ之ヲ掲クルノ日ヨリ一般ニ知了シタルモノト認ムルヲ以テ

常ニ之ニ注意スヘシ

第十條 學校ノ器物又ハ圖書ハ專ラ鄭重ニ之ヲ取扱フヘシ若シ過チテ汚損又ハ

亡失シタルトキハ直ニ其旨ヲ届出テ處置ヲ受クヘシ

第十一條 諸規程ニ悖戻シ若ハ長上ノ命令訓誡ニ從ハサル者ハ各其情狀ニ照シ

處罰ヲ加フヘシ

主 事

東京高等商業學校教授理學士 奈 佐 忠 行 靜岡縣 平岡

生徒(四十一人)

第四年生(九人)

近 本 與 一 兵庫
田 尻 愛 義 島根
渡 邊 喜 三 郎 巖 手
仲 佐 祐 作 千 葉
有 田 三 代 次 廣 島
堤 瀧 三 靜 岡

第三年生(七人)

平 野 保 三 千 葉
宗 像 善 雄 福 島
森 武 臣 岡 山
加 藤 政 一 愛 知
吉 田 利 吉 岡 山
田 原 輝 士 和 歌 山

主事生徒

第二年生 (十二人)

| | |
|-------|-----|
| 高笠原重三 | 愛知 |
| 中島茂岐 | 岐阜 |
| 京谷謙吉 | 愛媛 |
| 一條貴宮 | 城 |
| 內田量平 | 埼玉 |
| 松本五郎 | 福島 |
| 小沼恭 | 東京 |
| 藤田茂 | 岡山 |
| 馬場信 | 宮城 |
| 笠原五郎 | 埼玉 |
| 山崎壽一 | 廣島 |
| 洞口佐久 | 宮城 |
| 原島省吾 | 神奈川 |
| 大庭一郎 | 青森 |

第一年生 (十三人)

| | |
|-------|----|
| 山崎八郎 | 新潟 |
| 豐田確吉 | 山形 |
| 下ノ村涉 | 大分 |
| 小林精一 | 愛知 |
| 深見義一 | 愛知 |
| 黑田傳十郎 | 福井 |
| 野田嘉七 | 岡山 |
| 高橋東夫 | 岡山 |
| 和賀井泰 | 栃木 |
| 柿崎省太郎 | 栃木 |
| 野口征吉 | 埼玉 |
| 伊藤傳三郎 | 新潟 |
| 成田瑞夫 | 愛知 |
| 儀間真謹 | 沖繩 |

中 後 俊 二 兵 庫

生徒年級表

(大正八年六月三十日調)

| 種 別 | 第 一 年 | 第 二 年 | 第 三 年 | 第 四 年 | 種 別 | 人 員 |
|-----|-------|-------|-------|-------|-----|--------------------------|
| 計 | 一 年 | 二 年 | 三 年 | 四 年 | | 四一 一三 一三 七 九 |

生徒年級表

| 種 別 | 最 高 | 最 低 | 平 均 |
|-------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|
| 第 三 年 | 二七〇〇 _年 二六〇六 | 二〇一〇 _年 二一〇二 | 二四〇〇 _年 二三〇一 |
| 第 四 年 | 二七〇〇 _年 二六〇六 | 二〇一〇 _年 二一〇二 | 二四〇〇 _年 二三〇一 |

生徒年級表 生徒年級表

| | |
|-------|-------|
| 第一 | 第二 |
| 年 | 年 |
| 二五、〇二 | 二四、一〇 |
| 一九、〇二 | 一九、〇六 |
| 二二、一〇 | 二二、〇八 |

生徒身體檢查表

(大正八年四月検査)

| 學級 | 検査目 | | | 身長 | 體重 | 胸圍盈虛ノ差 | 人員 |
|-----|------|------|------|--------------------|--------|-------------------|----|
| | 平均 | 最少 | 最大 | | | | |
| 第四年 | 五、四五 | 五、三〇 | 五、六五 | 一七、九〇 ^尺 | 一二、九五〇 | 〇、四〇 ^尺 | 八 |
| 第三年 | 五、四二 | 五、二三 | 五、六一 | 一五、六五〇 | 一三、八〇〇 | 〇、二五 | 七 |
| 第二年 | 五、四五 | 五、二〇 | 五、八一 | 一四、四〇〇 | 一四、二〇〇 | 〇、二六 | 二 |

佛考 平均ハ最大最少ノ平均ニアラスシテ總人員ノ平均ナリ

生徒入學前卒業學校別及府縣別表 (大正八年六月三十日調)

| 第一 | 年 | |
|----|--------|--------|
| | 最少 | 最大 |
| 平均 | 五、四三 | 五、六五 |
| | 一四、三〇〇 | 一五、八〇〇 |
| | 〇、三一 | 〇、五一 |
| | 一一 | 一一 |

| 道廳府縣 | 種別 | 師範學校 | 中學校 | 商業學校 | 小計 |
|------|----|------|-----|------|----|
| 北海道 | 道 | 一 | | | 一 |
| 東京都 | 都 | | | | |
| 大阪府 | 府 | | | | |
| 奈良縣 | 縣 | 二 | | | 二 |
| 兵衛 | | | | | |
| 長崎 | | | | | |
| 計 | | 一 | | | 一 |

生徒身體検査表 生徒入學前卒業學校別及府縣別表

德 和 山 廣 岡 島 鳥 富 石 福 秋 山 青 巖 福

宮 長 岐 滋 山 靜 愛 三 奈 枋 茨 千 群 埼 新

歌

島 山 口 島 山 根 取 山 川 井 田 形 森 手 島

城 野 阜 賀 梨 岡 知 重 良 木 城 葉 馬 玉 潟

生徒入學前卒業學校別及府縣別表

| | | 一 四 一 | | | 一 一 | 一 一 二

二 | | | | 一 五 | | 一 | 一 | 三 二

| 一 | 一 一 | | | | | | 一 | | |

一 | 一 | | | | | | | | 一 | | |

| | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |

| 一 | 二 五 一 | | | 一 一 一 一 一 二

三 | 一 | | 一 五 | | 一 | 二 | 三 二

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|
| 香 | 愛 | 高 | 福 | 大 | 佐 | 熊 | 宮 | 鹿 | 沖 | 計 |
| 媛 | 川 | 知 | 岡 | 分 | 賀 | 本 | 崎 | 島 | 繩 | 兒 |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | 三三 |
| | | | | | | | | | | 七 |
| | | | | | | | | | | 一 |
| | | | | | | | | | | 四一 |

二六

卒業生及其就職所

明治三十四年卒業(二十三人)

東京海上保險株式會社

小野 十郎 東京

×印ハ專攻部卒業者
△印ハ專攻部在學者
●印ハ死亡者

市立名古屋商業學校

村 瀨 圭 愛知

釜山公立商業專修學校

北川 勝次郎 滋賀

文部省

泉屋 清次郎 石川

市立名古屋商業學校

寄田 龍彦 愛知

鳥根縣立商業學校

近藤 達二郎 京都

香川縣立商業學校

井上 廣太郎 香川

山口改 伊藤 資生 宮城

靜岡縣三島町商業學校

根岸 近仁 新潟

梅田製鋼所

瀨戶 口竹二 佐賀

株式會社大倉洋紙店

加藤 耕福 井

姫路市立姫路商業學校

增澤 寅次郎 新潟

大連商業學校

松本 喜一 富山

自家營業

打田 喜代太郎 三重

同三十六年卒業(二十七人)

村 瀨 玄 愛知

株式會社住友銀行

白井 源吉 鳥取

三井合名會社

丸山 辨三郎 長野

織田改 鈴木 新次郎 靜岡

株式會社名古屋銀行
(濱松支店)

川村 環一 東京

釜山公立商業學校

福士 德平 巖手

兵庫縣立神戸商業學校

加藤 子郎 靜岡

淺野物產株式會社

足達 丑六 高知

私立豐橋商業學校

野田 益太郎 兵庫

株式會社長田商店

高山 經慶 愛媛

私立豐橋商業學校

曾我 智道 靜岡

卒業生及其就職所

二七

石川縣立商業學校

螺良改
小室 洵 一 栃木
早藤 石太郎 福井

濱松鐵工株式會社

廣島縣立尾道商業學校

追 試 驗

河地 大輔 山口

市立名古屋商業學校

松尾 慶次郎 京都
市川 友三郎 静岡
森改
田中 千代松 愛知

同三十八年卒業(二十六人)

岩野 由岐 太德 島
飯田 豐次郎 富山

三井物産株式會社
(臺北支店)

鷺見 基 助 岡山

市立甲府商業學校
日本女子商業學校

長野 廉 二 岡山
森 富次郎 滋賀

新潟縣刈羽郡立商業學校

岩林 喜之助 兵庫

株式會社臺灣銀行

竹本 節藏 廣島

大阪堂島商業學校

金山 永三郎 島根

日米自動車株式會社

石川改
山本 知太郎 東京

私立明星商業學校

吉田 茂太郎 香川

七尾町立商業學校

柴山 清作 栃木

株式會社第七十四銀行
(大阪支店)

小瀧 勝 香川

德島縣立商業學校

近藤 英三 德島

太田商會

宮本 實藏 熊本

神奈川電氣株式會社

松田 喜三郎 三重

神戸市信々組

村上 乙彦 熊本

富士製紙株式會社
(江別工場)

川尻改
吉 永 專吉 三重

株式會社島津製作所

北山 喜一 大分

宇都宮市立宇都宮商業學校

廣田 嘉一 愛媛

熊本縣立商業學校

川島 馬太郎 高知

釜山公立商業學校

山本 廉二郎 島根

橫濱市立橫濱商業學校

高木 脩吉 福岡

同四十年卒業(二十九人)

齋藤 晴次郎 香川

日本製粉株式會社

唯野 眞琴 福島

臺北中學校

瀨谷 佐次郎 福島

株式會社いとら呉服店

石井 清之助 三重

山形縣酒田町立酒田商業學校

梶原 壽一 愛媛

仁川公立商業學校

鹽田 近太郎 香川

釜山公立商業專修學校

水口 音三郎 德島

新潟縣立新潟商業學校

安田 久之助 岐阜

白木屋

藤田改
村田 長太郎 福井

善隣商業學校

伊藤 最一 香川

鐵道院

小原 政市 德島

帝國製帽株式會社

早川 小三郎改
竹田 正己 神奈川

市立仙臺商業學校

岩瀬 脩治 東京

京都市立第一商業學校

諏訪 原義衛 千葉

中津町立中津商業學校

佐藤 善次郎 宮城

沖繩縣那覇區立那覇商業學校

松田 新太郎 静岡

大垣町立大垣商業學校

江渡 哲太郎 青森

橫濱正金銀行(奉天支店)

住登 勝藏 德島

東京モスリン紡績株式會社

眞家 喜三郎 愛知

卒業生及其就職所

栗原 重康 福井

市立長崎商業學校

辻 文 八 長崎

久留米市立久留米商業學校
 青森市立商業學校
 七尾町立商業學校
 旭硝子株式會社
 佐賀縣西松浦郡立伊萬里商業學校
 栃木縣立商業學校
 住友電線製造所
 東亞煙草株式會社
 (青島販賣所)
 株式會社三越吳服店
 福岡市立福岡商業學校
 開城公立商業學校
 神戶市立商業學校
 新潟縣西蒲原郡間瀬銅山
 自家營業

楠木音次郎 三重
 室井改
 星 理 作 福島
 內田 德 彦 愛知
 岩間茂次郎 巖手
 江口 恕 一 佐賀
 山口 泰 藏 東京
 喜多野 常太郎 和歌山
 西村 義 郎 京都
 倉 本 進 千葉
 山 本 規 福岡
 太田武三郎 滋賀
 鈴木源 德 東京
 高 津 範 千葉
 小 黑 省 三 福島
 依知川 治 千葉

飯田啓三 愛知
 同四十二年卒業(二十九人)
 小倉市立商業學校
 濱松市立濱松商業學校
 新潟縣立新潟商業學校
 鹿兒島市立商業學校
 シドニー
 日本總領事館
 千葉縣立銚子商業學校
 北海道廳立函館商業學校
 靜岡縣沼津町立沼津商業學校
 株式會社大正貿易商會
 神戶市立神戶商業補習學校
 栃木縣立商業學校

山手官藏 福岡
 高橋福三 岐阜
 櫻井吉雄 茨城
 水口庄三郎 德島
 玉木勝次郎 德島
 長谷川正致 千葉
 大和田誠壽 福島
 加藤改
 鶴 飼 喜 平 岐阜
 楠間 龜 楠 和歌山
 下妻 貞 雄 新潟
 武田住太郎 愛媛
 眞下改
 大 山 綱 志 鹿兒島
 瀨間紀太郎 群馬

石川縣立商業學校
 新愛知新聞社
 濱松市立濱松商業學校
 京都市立商業實修學校
 株式會社第百銀行
 (下關支店)
 合名會社鈴木商店
 (朝鮮麗水練綿工場)
 長岡市立長岡商業學校
 熊本縣立商業學校
 株式會社山口銀行
 (東京支店)
 市立甲府商業學校
 宮城縣石卷町立商業學校
 興業貯蓄銀行

橋本 正 路 兵庫
 北 里 善 從 熊本
 堀江彦太郎 愛知
 川上 準 一 德島
 富中參三郎 和歌山
 澁谷 政 秀 富山
 山崎 清 記 山口
 西 藤 杉 松 滋賀
 久保田 敬太郎 新潟
 福 島 新 藏 熊本
 萩 原 駒 藏 滋賀
 谷員改
 後藤 清 一 岐阜
 渡 邊 進 茨城
 金 野 榮 巖 手
 羽 賀 鶴 松 德島

福岡縣田川郡小學校
 同四十四年卒業(二十九人)
 京都市立商業實修學校
 佐賀市立佐賀商業學校
 愛知縣名古屋市第九高等小學校
 兵庫縣立神戶商業學校
 愛媛縣立松山商業學校
 大連商業學校
 鹿兒島市立商業學校
 靜岡縣沼津町立沼津商業學校
 日本製粉株式會社

重藤 一 郎 福岡
 錫 村 審 新潟
 千 布 次 郎 佐賀
 高 橋 米 造 東京
 大 塚 貞 雄 兵庫
 小 谷 大 治 高知
 伊 藤 治 平 愛知
 久 保 重 德 愛媛
 藤 森 類 之 助 香川
 林 嘉 七 岐阜
 淵 清 八 佐賀
 宮 本 龜 藏 靜岡
 竹 內 勝 彌 群馬
 富 永 保 福岡

茨城縣那珂郡町立湊商業學校

永井 忠 茨城

追 試 驗

日本毛織株式會社

日下勝二郎 兵庫

東京市精華高等小學校

金子源三郎 群馬

朝鮮煙草株式會社

西川隆一 愛知

大正四年卒業生(十一人)

岐阜市立岐阜商業學校

加藤止孝 秋田

神戸高等商業學校

八木助市 廣島

高島屋飯田株式會社

三浦安造 滋賀

淺野同族貿易部

菊田清市 愛知

堀セルロイト株式會社

矢島秀三 福井

日本製粉株式會社
(神戸支店)

齋藤幸太郎 新潟

日露漁業株式會社

門山廣明 山形

仁川公立商業專修學校

吉田義夫 廣島

京都市立商業實修學校

中岡俊造 奈良

小樽高等商業學校

高松 勤 埼玉

新發田町立商業學校

田村武三郎 栃木

藤田鐵工所分工所

吉村 繁 福井

石川縣七尾町立甲種商業學校

萩原仙政 富山

神戸市立神港商業學校

松井萬之助 兵庫

東京市立日本橋高等小學校

澤田匡明 德島

濱松市立濱松商業學校

金井 浩 兵庫

伊勢勇吉 富山

伊勢勇吉 富山

薩摩治兵衛商店

木島義夫 千葉

西山種男 高知

西山種男 高知

同五年卒業(九人)

奧田繁藏 東京

習田 敦 兵庫

習田 敦 兵庫

同七年卒業(十人)

白崎 武 福井

原田作之助 山形

原田作之助 山形

群馬縣佐波郡伊勢崎町立商工補習學校

塚田知一 東京

皆川 一 茨城

皆川 一 茨城

合名會社鈴木商店
(横濱支店)

井上光次 京都

今井三吉 富山

今井三吉 富山

三重縣立四日市商業學校

渡邊秀雄 山形

樋口 浩 岐阜

樋口 浩 岐阜

北海道立小樽商業學校

伊藤義一 廣島

杉本司馬三郎 愛知

杉本司馬三郎 愛知

北海道立小樽商業學校

相澤直美 北海道

今村直人 福岡

今村直人 福岡

兵役

山科 勉 山形

大場健治 山形

大場健治 山形

滿洲營口實業學校

山崎善次 鳥取

長坂千里 長野

長坂千里 長野

北海道廳函館師範學校

遠山改 平井儀八 殿手

加藤仙正 愛知

加藤仙正 愛知

株式會社長瀬商店
(東京支店)

森脇壽一 兵庫

松崎實次 愛知

松崎實次 愛知

神戶市立神港商業學校

西森義親 愛媛

提箸蘇一郎 栃木

提箸蘇一郎 栃木

靜岡市立靜岡商業學校

有賀清海 長野

畑中英太郎 愛知

畑中英太郎 愛知

靜岡市立靜岡商業學校

千葉多末 青森

神倉佐安 神奈川

神倉佐安 神奈川

安宅商會

足立一良 兵庫

同六年卒業(六人)

北海道廳函館師範學校

加藤仙正 愛知

東京府青山師範學校

松崎實次 愛知

横濱市立横濱商業學校

提箸蘇一郎 栃木

日清製粉株式會社
(名古屋支店)

畑中英太郎 愛知

卒業生及其就職所

神倉佐安 神奈川

同八年卒業(五人)

靜岡市立靜岡商業學校

千葉多末 青森

安宅商會

足立一良 兵庫

卒業生府縣別表

巖 福 宮 長 岐 滋 山 靜 愛 三 奈 枋 茨 千 群

手 島 城 野 阜 賀 梨 岡 知 重 良 木 城 葉 馬

四 七 二 三 六 六 | 八 四 五 一 五 五 八 四

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

四 七 二 三 六 六 | 九 四 五 一 五 五 八 四

三五

卒業生府縣別表

埼 新 長 兵 神 大 京 東 北

奈 海

玉 瀉 崎 庫 川 阪 都 京 道

道 府 縣

設置以來卒業

| 七 一 二 二 | 四 九 一

本年卒業

| 一 | 二 | | | | | | | | | |

合

計

| 八 一 三 二 | 四 九 一

兵庫縣立神戸商業學校
岡山縣師範學校

内山英吉 靜岡
相馬忠雄 新潟

合計二百〇四人

多鹿茂雄 兵庫

三四

合 沖 鹿 宮 熊 佐 大 福 高

兒

計 繩 島 崎 本 賀 分 岡 知

一九九 | 一 | 四 四 一 六 五

五 | | | | | | | | |

二〇四 | 一 | 四 四 一 六 五

愛 香 德 和 山 廣 岡 島 鳥 富 石 福 秋 山 青

歌

媛 川 島 山 口 島 山 根 取 山 川 井 田 形 森

八 七 〇 三 二 四 二 五 二 六 一 八 一 五 一

| | | | | | | | | | | | | | |

八 七 〇 三 二 四 二 五 二 六 一 八 一 五 二